CO-BO「就学・進学に困難を抱える外国ルーツの子どもたちの存在」という社会問題の構造（仮説 α版）

何が起きているのか

・高校受験自体ができない子がいる
・経済的に公立高校のみの受験となるが、日本人を前提にした受験資格・合格基準であるため、合格することが困難

なぜそれが起きているのか

直接的な原因

受験資格がない

・母国で通っていた中学校の成績証明書などの受験に必要な書類が入手できず、受験資格を得られない
・年齢超過で日本の中学校にも入れず、受験資格を得られない

高校の合格基準を知らない

・進学に必要なこと（勉強・費用）を知らない
・進学をサポートしてくれる支援団体やしくみを知らない
・日本での進学について情報交換できる友人が少ない

（親に）お金がない

・勉強に必要な道具を買うお金がない
・自宅が狭く、勉強する場所がない
・家計を支えるためのアルバイトや家事、姉弟の世話で時間も体力もない

学力がない

・来日から受験までの間がなく、日本語と受験科目を一度に勉強しなくてはならない
・日本語がわからないので先生の話や教科書の内容がわからない
・日本語で会話はできるが、学習言語が身についていないので、問題を解けない
・友だちが少なく、親も日本の勉強はわからないので、質問できる相手がいない
・外国人が日本の学校制度、教育課程になじんでいくための公的フォローがなく、勉強についていけない

進学のモチベーションがわかない

・親は卒業後に進学ではなく就職を希望している
・親の都合による来日のため、日本で進学しようという気になれない
・クラスでも孤立しがちになり、学校へ行く気になれない
・進学できる可能性を感じられない
・進学するメリットがわからない
・自身の将来への希望や期待が持てない

原因を生む背景

・外国ルーツの子どもたちの就学・進学支援制度が不十分
・3科目受験できる公立高校等、限られた語学力・経済力でも受験できる進学先が非常に少ない
・受験資格や合格基準が日本人のみを前提に設定されている
・親は来日・呼び寄せにあたって、子どもの教育について計画を立てていないことが多い
・日本語がわからない親や子どもは、日本の就学・進学情報を得づらい
・家庭の経済状況が不安定
・会話しやすい言語が親子で違う場合、コミュニケーションが図れず、親子の信頼関係を築けない
・外国ルーツの子どもたちの就学・進学問題に関する責任所在の不明（国、企業、地域、個人）

子どもはどのような状況であっても教育を受ける機会を得られるべき。現状の公的支援は不十分

子どもは親の意向に従うしかない。来日を決めた親が子の就学にもっと気を配る必要があるのではないか。一方で、情報を得たい親たちが得られる多言語化された情報はわずか

なぜそれが問題なのか

学力や職業的専門性を身につける環境がないため、子どもたちの職業選択が極端に制限される

反社会的勢力やそれに準ずる活動に走る場合もある

自立できない人は国や自治体の恒常的な支援を必須とし、社会的コストが恒常的にかかる

一定期間生活保護を受けると就労意欲が低くなる傾向がある。在留外国人の高齢化も合わせて考えると、社会的コストは増加する一方だという意見も

国内の人的資源活用ができていないため、国際競争力が伸び悩む

活躍できる人材だけ来日すればよい、という考え方もあるが、その家族は考慮されていない
オーストラリアのように在留外国人を活躍させることで競争力を高めている国もある

他の社会問題との関係・つながり

・子どもの貧困
・若者の非正規雇用増加
・社会保障費や生活保護の増加
・反社会的勢力の増加

現時点での取り組み

行政 支援団体に対する資金助成、情報交換・研修の実施、情報の多言語化、日本語教育の推進

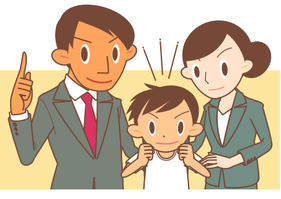
成果や評価が不明瞭

社会 支援団体や市民ボランティアによる学習支援、地域レベルでの外国人住民支援

自主性に頼っているため、継続性に疑問

今見えてきていること

進学・就職したごく一部の外国ルーツの子どもたちが、支援する側に回っている



親世代へのサポートという課題は残ったままである

考えてみよう

■仮説で描かれた「社会問題の構造」について、あなたが気になった部分はどこですか？それはなぜですか？
■気になったことに対して、あなた自身ができそうなことはありますか？